

令和8年6月3日  
生物系特定産業技術研究支援センター

スタートアップ総合支援プログラム（SBIR 支援）  
令和8年度公募に係る審査結果について

標記について、下記のとおり採択課題を決定しましたので、お知らせします。

記

公募期間：令和8年2月6日（金）から3月6日（金）まで  
審査結果：下表及び別紙のとおり

研究開発テーマ	応募件数	採択課題数
研究開発テーマ1 （農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消）	18件	5件
研究開発テーマ2 （農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化）	7件	2件
研究開発テーマ3 （農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進）	24件	7件
研究開発テーマ4 （農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現）	34件	11件
計	83件	25件

（参考）応募フェーズごとの審査結果

フェーズ	応募件数	採択課題数
フェーズ0（発想段階）	50件	8件
フェーズ1（構想段階）	15件	7件
フェーズ2（実用化段階）	16件	8件
事業化準備フェーズ	2件	2件
計	83件	25件

以上

## スタートアップ総合支援プログラム（SBIR支援） 令和8年度採択課題一覧

## 【研究開発テーマ1（農林漁業者の高齢化や担い手不足等、生産現場の課題解消）】

e-Rad 管理番号	フェーズ	研究課題名	研究代表者	概要
26253350	1	ワイン用ブドウ自動収穫に向けたAI収穫ロボットの研究開発	国立大学法人 北海道大学 楊 亮亮	日本のワイン用ブドウ栽培における高齢化・人手不足に対応するため、自律型収穫ロボットの社会実装を目指す。樹形最適化、AIを活用した高精度三次元穂軸認識、圃場での統合制御を通じ、省力化と品質維持を両立する収穫技術を確立する。
26254027	1	ペン型瞬間採血装置を用いた家畜伝染病に対する受託検査サービスの事業化	国立大学法人 宮崎大学 関口 敏	本事業は、独自開発のペン型瞬間採血装置と乾燥血液検査技術により、高度な家畜感染症診断を一般化する。低侵襲な定期モニタリングで疾病を早期発見し、薬剤投与の最小化と生産性向上を実現。畜産農家や獣医師へ高付加価値なアドバイザリーを提供することで、動物福祉と農家収益を両立する次世代畜産モデルを構築する。
26253912	2	全国の地鶏生産基盤を支えるロードアイランドレッド系統の普遍的AI雌雄鑑別モデルの確立と広域社会実装実証	日本ルースト 株式会社 中野 裕介	全国の主要地鶏23種の交配基盤であるロードアイランドレッド（RIR）系統に着目し、深刻な鑑別師不足を解消する普遍的AI雌雄鑑別モデルを確立する。熊本県・愛媛県の2,000羽規模の学習データに基づく統合モデルを開発し、令和8年度には埼玉県・宮城県の地鶏生産に用いるRIR系統で汎用性を実証。広域社会実装による地鶏の安定供給体制を構築する。
26254143	2	ブロッコリーの病害虫発生を予測し、最適な農薬を提案する防除DXアプリの開発	株式会社 ミライ菜園 畠山 友史	気候変動の影響が強まる中で、露地野菜の病害虫発生タイミングが不安定になり、従来の勘と経験が通用しなくなっている。本研究では病害虫の発生予報AI、最適な農薬ローテーションを提案するAIを搭載したアプリを開発。病害虫リスクに合わせた柔軟な農薬散布を提案し、必要最小限の農薬で被害を未然に防ぐ仕組みを実現する。
26254057	事業化 準備	産地魚類市場における水産物取引業務を省力化するデジタル化システムの開発	株式会社 ZIFISH 江幡 恵吾	アナログ作業に依存した水産物取引業務をデジタル化する水産物取引システムを確立する。自動計量システムを核に、電子取引基盤や流通ラベルによる物流改善を展開し、水産物取引の透明化と産地価格の適正化を促す。水揚げデータの蓄積を通じて資源管理を高度化し、持続可能な水産業と地域経済の活性化に貢献する。

【研究開発テーマ2（農林水産物の加工・流通の合理化・迅速化）】

e-Rad 管理番号	フェーズ	研究課題名	研究代表者	概要
26254088	0	農産物鮮度保持と食品ロス削減の社会実装を可能にする気孔制御技術の開発	国立大学法人 東海国立大学 機構 名古屋大 学 佐藤 綾人	本研究は、植物の気孔閉鎖化合物（SCLs）を活用し、冷蔵・ガス管理に依存しない低コスト鮮度保持技術を確立するものである。種横断的に最適処方を構築し、噴霧・浸漬装置と一体化した実装モデルを提示することで、輸出対応型流通および食品ロス削減の社会実装を目指す。
26254529	2	粉体/粘体原材料の計量/ハンドリングのためのロボットシステム開発と事業化検討	株式会社 Food Horizon 小杉 和寛	人手依存が続く食品製造現場の「計量・小分け工程」に対し、フェーズ1のロボット計量ハンドリング技術を深化、HACCP対応の統合計量システムを構築する。同時に現場で人がロボットを使いこなす「協働運用モデル（SOP）」を確立し、初期費用ゼロの「計量BPOサービス（調達差益モデル）」の商用化を実証する。

【研究開発テーマ3（農林水産業・食品産業の可能性の拡大と成長の推進）】

e-Rad 管理番号	フェーズ	研究課題名	研究代表者	概要
26253970	0	世界的なタンパク質クライシスと乳児用ミルク需要増加に対応する、麹菌による乳タンパク質生産供給システムの構築	国立大学法人 東京大学 丸山 潤一	タンパク質クライシスと乳児用ミルク需要増加に対し、千年来にわたる食経験の歴史に裏打ちされた高い安全性を有する麹菌を用いて、乳タンパク質高生産技術を開発する。母乳に近い栄養組成の安定供給を実現し、乳児用ミルク・代替乳市場への展開を通じて、持続可能な食料供給体制の構築と多大な経済的波及効果を創出する。
26254046	0	ゲノム編集とクロマチン制御の融合による純国産・超高速F1育種プラットフォームの開発	グランドグリーン株式会社 江尻 真斗	10年を1年に。東大のクロマチン制御による半数体誘導技術と名古屋大発グランドグリーン社のゲノム編集技術を統合し、純国産の半数体誘導技術を確立する。通常十数年を要するF1種子親株開発を劇的に短縮し、気候変動や市場ニーズに最速適応できる革新的・超高速育種プラットフォームの事業化を目指す。
26254086	0	鳥インフルエンザ抵抗性ニワトリ作製のための基盤確立事業	株式会社 セツロテック 竹澤 慎一郎	高病原性鳥インフルエンザの被害を低減するため、ウイルス感染や増殖に必須な宿主因子遺伝子をスクリーニングにより同定し、感染成立を阻害する耐性ニワトリの開発を目指す。耐性ニワトリ樹立は「耐性遺伝子の選別」と「ゲノム編集ニワトリ作製と感染耐性評価」の二段階であり、フェーズ0では耐性遺伝子の同定を実施する。
26254531	2	木材から得られるリグニンを利用した多彩でセキュアな顔料の開発	国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 竹岡 敬和	木質バイオマスの主要成分であるリグニンから単分散ナノ粒子を調製し、その自己集積による構造色を利用した次世代バイオ顔料を開発する。本技術はリグニンが持つ光吸収特性を利用することで高彩度構造色を実現するものであり、重金属顔料や石油由来染料を代替する環境調和型素材として、化粧品・包装材等の高付加価値市場への展開を目指す。
26254532	2	スギ材の機能性抽出成分＝フェルギノールの段階的商品化	国立大学法人 岩手大学 小藤田 久義	スギ材の抽出成分であるフェルギノールは抗菌・抗酸化作用など様々な有用機能を持つが、汎用化学品としては普及していない。本研究では、スギ材乾燥排液を原料として精製フェルギノールの量産化技術を確立するとともに、有効性・安全性の検証および商品開発・事業化に関する諸課題についての取り組みを実施する。

26254533	2	食品廃棄物を利用した非ベンゼン性有機蛍光物質の生産基盤の確立とその応用	学校法人 日本大学 松藤 寛	これまでに培った非ベンゼン性有機蛍光物質群の生産技術を利用し、紫外線吸収剤や紫外線散乱剤として利用可能な新規の非ベンゼン性有機蛍光物質を生産する。本物質は従来品より極めて安全性が高いことから、安全性や環境毒性の点から使用禁止国、区域でも利用できるスキンケア製品を開発するスタートアップの設立を目指す。
26253984	事業化 準備	養殖魚の高成長性・高温耐性を実現する次世代プロバイオティクスの社会実装	ホロバイオ 株式会社 梅田 眞郷	ホロバイオ社は、世界で初めて養殖魚の腸内細菌叢を全面的に改変し種苗生産効率を大幅に向上する次世代プロバイオティクス技術を開発した。本事業では、1) 本技術の種苗生産現場における最適化を行い、2) 養殖魚の成長性・高温耐性を向上する機能性腸内細菌株群の実用化を進め、本格的な事業展開を目指す。

【研究開発テーマ4（農林水産業・食品産業の高い生産性と持続可能性の両立の実現）】

e-Rad 管理番号	フェーズ	研究課題名	研究代表者	概要
26253512	0	各種バイオマス炭化温度別標準バイオ炭作成を通じた品質基準データベース化と品質証明	学校法人立命館 立命館大学 依田 祐一	J-クレジットバイオ炭品質規格のより安価で正確な検査手法（特許あり）を使用し、簡易な品質規格を開発する。各種未利用バイオマスの炭化温度別標準品を作成し、データベース化する。各種バイオ炭の二酸化炭素除去（CDR）の品質証明を行い、炭素クレジット化と共に土壌改良材としての有効利用法の策定を行う。
26254031	0	脂質由来ポリマーによる生分解性被覆肥料の研究開発	国立大学法人 愛媛大学 安部 真人	脂質由来ポリマーを用いた生分解性被覆肥料の開発を目的とし、肥料の溶出制御と環境負荷低減を同時に実現する技術基盤を構築する研究である。脂質由来ポリマーの構造設計により分解速度や疎水性を調整し、作物の生育段階に応じた最適な肥料供給を可能とする被覆材を創出することで、持続可能な施肥体系の確立を目指す。
26254122	0	水位センサー及び栽培管理記録を用いた水稻栽培ビッグデータ解析による「最適中干・収穫タイミング」算出モデルの構築	株式会社 フェイガー 後藤 明生	全国3,000件のJ-クレジット取組農家から取得する栽培管理記録と、高精度水位センサーによる気象・環境ビッグデータを統合解析し、水稻栽培における最適な中干しや収穫のタイミングを算出する予測モデルを構築し、コメ生産の生産性向上と温室効果ガス削減の両立を実現するイノベーションを目指す。
26254125	0	プラズマ生成活性種による養殖魚成長促進技術の創出	国立大学法人 愛媛大学 池田 善久	養殖業では成長速度のばらつきや生産効率の限界が課題となっている。本研究では、低温プラズマにより生成した活性種を制御供給することで魚類の成長促進を実現する新技術を創出し、生産性向上と持続可能な養殖の実現に貢献する。
26253787	1	北海道型輪作体系を維持する「てん菜糖蜜」由来高機能バイオ材料の量産化技術開発	国立大学法人 北海道大学 田島 健次	セルロース合成菌の育種、製造プロセスの最適化によって、てん菜糖製造時の副産物である糖蜜を原料とした高機能バイオ材料の量産化技術を開発、事業化することにより輪作体系の維持、安定的な食料生産、産業振興、サーキュラーエコノミーを実現する。構造材料適用によるCO <sub>2</sub> の長期固定化・大気中濃度の低減にも貢献する。

26253994	1	未利用食品資源のアップサイクル飼料製造技術確立と性能検証	国立大学法人 信州大学 上野 豊	地域食品製造業者から排出される製造残余物や生産農家の非販売農産物を未利用食品資源として定義し、種々の付加価値を持つ「アップサイクル飼料」として事業化可能なコストで製造するための技術開発を行うとともに、製造飼料が有する価値について経済効果（生産性）及び環境負荷軽減効果（GHG低減効果）を評価する。
26253998	1	データ駆動型環境制御によるアメリカミズアブ自動産卵ユニット（SOU）の開発と国産代替タンパク供給インフラの構築	株式会社 GoldenHarvest 鎌 裕介	国産代替飼料の社会実装に向け、従来の手作業を凌駕する完全自動化産卵ユニット（SOU）を開発する。交尾・産卵の最適化で産卵効率7倍、人件費92%削減を達成。圧倒的低コストな種苗供給インフラにより昆虫由来タンパク質の大規模生産を可能にし、世界的にも例のない新産業の基盤を確立する。
26254049	1	LiDAR体重測定と搾乳量予測による酪農DX基盤の構築	国立大学法人 広島大学 杉野 利久	本技術は、LiDARによる非接触体重・体尺測定技術である。さらに体重・行動・環境データを統合し、搾乳量を予測するモデルを構築する。これらを基盤にスマート酪農の実現可能性を検証する。
26254085	1	細胞性粘菌由来のネコブセンチュウ忌避化合物に基づく、次世代型センチュウ防除剤の開発：土壌健全化と持続可能な食糧生産を目指す	学校法人上智学院 上智大学 齊藤 玉緒	申請者が発見した細胞性粘菌由来の安全で作物栽培中にも使用可能なネコブセンチュウ忌避化合物とその標的分子に関する知見をもとに、絶対寄生性線虫を忌避させるという新規作用機序を持つ特異性の高い分子標的型防除剤を開発する。これにより一般毒性の強い化学農薬を削減し、土壌の健全化と持続可能な食糧生産を目指す。
26253815	2	畜産廃棄物の資源化を実現する排水処理不要型30倍濃縮液肥システム	国立大学法人 九州大学 矢部 光保	畜産排水は大量発生するが、小区画等により散布可能な農地が限られ、さらに臭気が障壁となって利用が進んでいない。また液肥濃縮では電気透析で副生する脱塩液の処理負担が普及の制約となる。本研究では循環曝気による臭気低減とRO+ED統合により、脱塩液循環で排水処理不要な資源循環型高濃縮液肥システムを確立する。
26254129	2	エピゲノム制御技術を用いた環境ストレス耐性作物種子の実証研究	株式会社 SACMOTs SURIYASAK CHETPHILIN	本研究では、DNA 配列を改変しないエピゲノム制御技術を用い、高温ストレスに耐性を有する作物種子の社会実装を目指す。水稻品種コシヒカリ及びヒノヒカリを対象に、圃場試験、エピゲノム検査を実施し、高温耐性及び、安定性評価を行い、既存種苗流通と連携した社会実装に必要な技術基盤を構築する。